

令和3年度事業報告書
(簡略版)

社会福祉法人誠友会

は じ め に

2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻。コロナ変異株オミクロンのパンデミックと共に世界中に恐怖と疑惑を引き起こす一方で、軍需産業や大手製薬会社など世界的企業の莫大な利益拡大が報じられています。政治、経済、社会そして宗教も巻き込んで混迷を深め、対立と紛争を生み、国民不在かつその国民自身の利己観すら顕在化してきたこの1年であったように思えます。

ロシア・ウクライナ紛争は、マリウポリの陥落と共に生物化学兵器研究所の所在と米国・カナダの関与が明らかになり、フランスが技術供与した武漢ウイルスにまで因果が及ぶような報道すらあります。偽旗作戦や創作された情報発表等々戦時のプロパガンダの怖さを思い知ると同時に、経済制裁や貿易制限による燃料費、電気代、食糧費等の高騰をもたらして笑う支配者の影を感じずにはられません。

福祉の現場にも深刻な不安材料が提示された令和3年度でしたが、コロナ禍は落ち着き始めました。千葉県では「無料PCR等検査事業」を6月末で中止。また医療現場や保健所の負担軽減のため、県が設置した「検査キット配布・陽性者登録センター」も6月12日で受付休止との発表がありました。今後は医療機関に電話相談してからの対応になるとされており、これは実質第5類感染症への変更だと言えるでしょう。

当法人の事業は、コロナウイルス感染によるクラスターが法人事業所全体で1回発生し、保育事業も含め事業の休止は6回に及び、都度、感染経路・エリアや濃厚接触者を区分するための行動歴を把握するなど多大な事務作業に追われました。コロナウイルスによる死亡者は無かったものの、法人全体で入院件数113件、入所・入居者死亡数51名という記録的な数値が報告されました。基礎疾患の悪化や加齢の他ワクチン接種による免疫力低下などが影響したのかもしれませんが。人の死は必然。原因は何であれ“死の受容”について改めて考えさせられる契機ともなりました。

個々の事業は、昨年同様三密・濃厚接触防止に配慮して粛々と実施しました。通所介護事業の稼働率減が顕著となっていますが、経営全体としてはほぼ順調であったと言えます。事業活動計算上の決算は黒字でしたが、資金収支計算上、佐倉白翠園でフロンガス規制による空調機交換工事兼災害時の非常用発電設備の補助事業と職員確保のための職員宿舍整備補助事業を実施した臨機の支出が計上されています。

“豊かさを失わない実践”。令和3年度も職員は工夫を重ね、諸事業に取り組んできました。農園事業もイチゴ、トロピカルフルーツ、麦栽培などを成功させ地域共生社会の創出に向けて第1歩を踏み出せた感があります。令和4年度4月1日からは社会福祉法人連携推進制度が施行され、職員確保、経営基盤の強化、地域貢献事業の取り組み方などが変化していくことでしょう。本法人はスリランカの技能実習生を積極的に受け入れていることも含め、これからも一定の存在感を示し、地域における重要な役割を担っていかねばなりません。

世界情勢が不透明な中、私たちの仕事は日常生活の安定を目指すもの。これからもコツコツと地に足の着いた取り組みを実践していくことを確認し、令和3年度事業報告にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和4年5月

社会福祉法人 誠友会
理事長 竹内 淳

〔1〕 概要

1. 法人及び施設の概要

(1) 法人

- ① 法人名 社会福祉法人誠友会
- ② 所在地 千葉県佐倉市岩名1011番地
- ③ 代表者 理事長 竹内 淳
- ④ 設立年月日 昭和63年11月4日
- ⑤ 目的 多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

⑥ 役員 8名 令和4年3月31日現在

役職名	氏名	住所	公職等
理事長	竹内 淳	〒285-0011 佐倉市山崎 368	誠友会 統轄施設長
常務理事	竹内久美子	〒285-0011 佐倉市山崎 368	はくすい保育園 施設長
常務理事	安宅 香織	〒264-0025 千葉市若葉区都賀 3-1-20-304	特養佐倉白翠園施設長
理事	木村 正久	〒285-0015 佐倉市並木町 243	医師
理事	鈴木敬一郎	〒286-0047 成田市江井須 220-81	特養栄白翠園施設長
理事	寺田 純子	〒286-0047 佐倉市宮ノ台 5-12-8	佐倉市社会福祉協議会理事
理事	岩淵 康雄	〒264-0025 東京都杉並区梅里 2-15-9	佐倉中央病院 病院長
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	元四街道市福祉サービス部長
監事	井戸川員三	〒284-0001 四街道市大日 470-36	千葉県四街道市監査委員

⑦ 評議員 7～9名

役職名	氏名	住所	公職等
評議員	大久保靖夫	〒270-1516 栄町安食 3660	NPO法人 栄町観光協会理事長
評議員	中野いく子	〒285-0025 佐倉市鐺木町 235	(一財)社会福祉研究所 理事
評議員	櫻井 肇	〒285-0011 佐倉市山崎 500-1	前佐倉市内郷地区社会福祉協議会会長
評議員	峰村 愛子	〒285-0034 佐倉市千成 1-20-4	ボランティア代表
評議員	田代 道郎	〒112-0002 東京都文京区小石川 3-16-8	元入所者家族代表
評議員	萩原 勝世	〒285-0812 佐倉市城 203-2	松ヶ丘防犯グループ会長
評議員	穴原 昌弘	〒270-1515 栄町安食台 2-5-17	栄町民生・児童委員協議会顧問
評議員	西原 弘明	〒285-0850 佐倉市西ノカリが丘 1-24-1	社会福祉法人愛光 理事長
評議員	堀井弥奈子	〒135-0063 東京都江東区有明 1-2-11-504	㈱佐倉自動車学校 代表取締役社長

⑧ 評議員選任解任委員 3名

役職名	氏名	住所	選出分野
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	誠友会 監事
事務局	小笠原 健	〒284-0001 四街道市大日 2208-1	特養佐倉白翠園 生活相談室室長
外部委員	野口 恭義	〒285-0861 佐倉市臼井田 1029	元誠友会理事・評議員

2 会議開催状況

(1) 理事会 全7回(内書面審議3回) 評議員会 全3回(内書面審議1回)

主な議題

定款変更、事業報告、事業計画、予算、決算、各種規程変更、役員人事・理事選任、評議員選任、千葉県介護施設等整備事業に伴う建築工事入札について等

(2) 評議員選任・解任委員会 全1回

(2) 苦情処理委員会開催状況 全2回

(3) 合同経営会議 全9回

2 佐倉白翠園

新型コロナウイルス感染症により、デイサービスの休業及び従来型特養では園内クラスターが発生。在宅サービス利用者への受け入れ対応や施設内ゾーニングに配慮しながら、感染の拡大防止と共に事業継続に努めた。

With コロナの方針下、ボランティアの受け入れや、共生事業に積極的に取り組んだ。千葉県や佐倉市の補助事業を活用して、新たな事業への取り組みや新型コロナウイルス支援交付金での感染対策備品購入に努め、支出減につながった。

[1] 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)

1 指定施設サービス内容 定員64名

2 会議等

所属長会議(全41回) 給食委員会(全12回)

職員全体会議(全2回) 衛生委員会(全12回)

経営会議(全11回) 感染症対策委員会(全12回)

看護会議(全12回) 行事委員会(全12回)

介護会議(全体会議1回) 入所(入居)検討委員会(全13回)

介護リーダー会議(全11回)

※ 事故防止委員会、安全対策委員会、褥瘡対策委員会、虐待防止委員会同日開催
個別処遇会議(全31回)

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全14回

4 ボランティア活動

(1) ボランティア活動年間延べ28人(前年度 35人) ※来園ボランティア活動数のみ

(2) ボランティア懇談会 新型コロナウイルス感染症による蔓延防止措置実施期間及び園内感染拡大の為、開催を中止

5 地域交流事業 全10回 ※非対面交流含む

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 7名 延べ人数 27人 延べ日数 27日

福祉・医療系 教育系等

7 各部門

【生活相談室】 正職1名

入院者の増加及び年度末に発生した新型コロナウイルスの園内クラスターに伴い、入所受け入れを制限したことで、稼働率が全体的に低下した。

(1) 年間平均稼働率 94.1%(前年度 96.2%)

(2) 平均介護度 4.1(前年度 4.06)

(3) 平均年齢 85.2歳(前年度 85.3歳)

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名 嘱託・パート：9 名（ショート・デイ・ユニット兼務）

研修・ワクチン接種などを行い感染対策に努めたが、2 月に新型コロナウイルス感染症の園内クラスターが発生し利用者 6 名職員 3 名が感染した。また、8 月以降、基礎疾患の悪化等による死亡者が多く見られ、年間では 13 名と例年より多く過去 4 年間平均の 1.6 倍であった。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 640 名 (前年度年間延べ 540 名)
- (2) 入院状況 年間 40 名 (前年度年間 39 名)
- (3) 死亡者数 年間 13 名 (園内看取り 9 名) (前年度 8 名)

【栄養室】 配置正職 1 名（ショート・デイ・保育兼務）

昨年に続き食レベルの低下がみられた。超きざみ食の割合は減少したが、ペースト食の割合は増加した。また、入所者全体の 30%は食事量の通常提供が難しくなり、栄養補助食品の使用率が 55%増加した。感染症対策も含めた防災備蓄を進めてきたが、2 月のクラスター発生では備蓄品の見直しが必要となった。

【介護部】 正職 15 名 嘱託・パート 17 名（ショート担当兼務 6 名）

研修、その他業務の見直しなどを行い感染防止に努めてきたが、2 月に入所者職員合わせて 9 名が感染した。隔離エリアに専属の職員を配置、非隔離エリアでも職員の配置を固定するなどして感染拡大防止を図ったが体調不良を訴える入所者、職員が続出し終息までに 1 ヶ月を要した。

- (1) 年間行事参加人数（SS 含） 674 名（前年度 701 名）
- (2) 年間誕生会参加人数（SS 含） 59 名（前年度 58 名）
- (3) 年間クラブ・レク実施状況（SS 含） 72 回（前年度 64 回）
- (4) 精神スケール調査

令和 3 年 3 月 1 日～3 月 30 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和 2 年度	令和 3 年度
非認知症	21 点以上	3	3
認知症	20 点以下	42	38
調査不可能	—	15	16
未調査	—	2	2
合計	—	62	60

[2] 特別養護老人ホーム（ユニット型介護老人福祉施設）

- 1 指定施設サービス内容 定員 50 名（1 ユニット 10 名×5 ユニット）
- 2 会議等 ユニットリーダー会議 全 12 回
 ※ 事故防止委員会、褥瘡対策委員会、行事委員会同日開催
 ユニット会議（全 7 回） 個別処遇会議（全 52 回）
- 3 ボランティア協力状況 年間延べ 0 名（前年度 2 名） 感染対策のため受入れなし。
- 4 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

入居定員の約半数にあたる 23 名が退居し、入れ替わりが多かったことにより稼働率が低下した。一方で加算の安定的な算定と平均介護度の上昇等により、稼働額は上昇した。

- (1) 年間平均稼働率 93.2%（前年度 95.0%）
- (2) 平均介護度 4.10（前年度 3.78）
- (3) 平均年齢 89.8 歳（前年度 89.7 歳）

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名 嘱託・パート：9 名（ショート・デイ・ユニット兼務）
 研修・ワクチン接種などを行い感染対策に努め感染症の発症は無かった。入所者の医療ニーズが高く受診等が多かった。また、8 月以降、基礎疾患の悪化等による死亡者が多く見られ、年間では 17 名と例年より多く過去 4 年間平均の 2.0 倍であった。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 558 名 (前年度年間延べ 427 名)
- (2) 入院状況 年間 37 名 (前年度年間 49 名)
- (3) 死亡者数 年間 17 名 (園内看取り 12 名) (前年度 12 名)

【栄養室】 正職兼務 1 名

入居者の入れ替わりが多かったが、食事形態ごとの人数は昨年とほとんど変わらなかった。栄養管理ソフトの導入により、低栄養状態リスクの管理が可能となった。

【介護部】 正職 15 名（内育休 1 名）、パート 13 名

ここ数年見られていた入居者の重度化傾向に加え、医療ニーズが高い方が新規入居所も多く、職員の業務負担が増えた。尿路感染症予防による入院者の減少に力を入れ一定の効果は得られたが、それ以上に退居が目立った。

- (1) 年間行事参加 41 回（前年度 27 回）
- (2) 年間誕生会回数 29 回（前年度 30 回）
- (3) 精神スケール調査

令和 4 年 3 月 1 日～3 月 31 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和 2 年度	令和 3 年度
非認知症	21 点以上	1	3
認知症	20 点以下	26	31
調査不可能	—	15	12
未調査	—	6	0
合計	—	48	46

[3] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

- 1 指定居宅サービスの内容 定員 10 名
- 2 会議等 ショートステイ会議 全 6 回
- 3 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

新規利用者は 28 件であったが、利用中止者は 30 件あった。プライバシー保護強化のための居室改修工事期間及び新型コロナウイルス感染症の園内クラスター発生中は、利用制限を行ったことで前年度より稼働率が低下した。

年間平均稼働率 77.7% 平均利用 7.8 名
 (前年度 85.5% 8.5 名)

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名、嘱託・パート：6 名（ショート・デイ・ユニット兼務）
 医療行為が必要な定期利用者が複数名発生した。

- (1) 年間医療行為利用者 述ベ 367 名（前年度 193 名）

【栄養室】 正職 1 名（従来型・デイ・保育兼務）

常菜一口大の利用者が多く、全体的に食レベルの低下はみられなかった。昨年に続き新型コロナウイルスの影響でオヤツ作りは実施できなかったが、利用者がおやつを選択できる「セレクトおやつ」を実施した。

【介護部】

プライバシー保護強化のための居室改修工事を行い、プライバシーへの配慮及び自宅に近い環境づくりを行った。

[4] デイサービスセンター（通所介護事業）

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護（定員）月曜～土曜：25名

2 会議等 デイ会議 全11回 ※新型コロナウイルスの兼ね合いにより2月は書面会議

3 ボランティア協力状況 年間延べ31名（前年度0名）

4 実習生受け入れ状況 年間実人数 0名 延べ日数 0日 医療系、介護系

5 各部門

【生活相談室】 専任正職1名 兼務2名

新規利用者27件を受け入れるが、22名の利用中止者と2月のデイ職員（運転員）の新型コロナウイルス感染等による利用控えが影響し、稼働率は微増に留まった。

(1) 稼働率 通常・予防型 年間平均稼働率 67.2% 平均利用 16.7名/日
(前年度 66.0% 16.4名/日)

(2) 平均年齢 85.4歳（前年度85.5歳）

(3) 新規利用者数 通常型 27名（前年度13名）

(4) 中止者数 通常型 22名（前年度24名）

【看護室】 嘱託・パート：4名（従来型・ショート・デイ・ユニット兼務）

(1) 年間運動器機能 年間 0名（前年度 0名）

(2) 医療行為件数 年間 延べ人数 97名（胃瘻、バルン留置者、在宅酸素）

【栄養室】 正職1名（従来型・ショート兼務）

おやつ作り実施状況 2回（陸稲おにぎり）

行事食実施状況 季節の行事ごとに実施 運動会、クリスマスメニュー等

【介護部】 正職2名（内1名兼務） 嘱託、パート10名（内1名兼務）、

園内外活動状況 （園外）ミニ運動会、文化祭・秋祭り

（園内）行事、レクリエーション、クラブ活動及び誕生会（毎月）

6 介護者のつどい（佐倉市委託事業） 全6回 ※新型コロナウイルスの影響により2回中止

7 通所型サービス（佐倉市委託事業） 全29回 農園教室
参加者延べ100名 ボランティア65名

[5] ケアサービスセンター

特定事業所加算Ⅱ 正職4名で人員加算安定、利用者人数増となり報酬額増につながった。
新規は要介護1・2が多く、要介護3以上は減少し、ケースの終了も多かった。

1 利用規模 156名 ※支援1.2事業対象は2名で1名計算

2 会議等 ケアマネ会議 全50回

3 職員数 正職4名

4 利用状況

新規プラン受付 年間79件（前年度102件）

年間利用件数 支援等 431件（前年度398件） 平均36件/月

要介護 1455件（前年度1280件） 平均121件/月

3

栄白翠園

コロナ禍において安定した事業、運営に努め、概ね計画を達成できた。技能実習生 1 名が体調不良により、技能実習期間を満了出来ず帰国した。また、老朽化に伴う設備等の故障等が増え、修繕を実施した。

[1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員50名

2 会議等

所属長会議（全 52 回）	給食委員会（全 12 回）
職員全体会議（全 2 回）	衛生委員会（全 12 回） 安全対策委員会（全 12 回）
経営会議（全 12 回）	感染症対策委員会（全 12 回）
看護会議（全 12 回）	行事委員会（全 12 回）
介護部職員会議（全 12 回）	施設・在宅合同リーダー会議（全 12 回）
個別処遇会議（全 17 回）	入所検討委員会（全 12 回）
褥瘡対策委員会（全 12 回）	身体拘束適正化検討委員会（全 4 回）

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全 12 回

4 ボランティア活動 年間延べ 0 人（前年度 0 人）

5 地域交流事業 0 回

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 29 名 延べ人数 57 人 延べ日数 15 日 福祉・医療系 教育系等

7 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

入退所が多く前年度と同数の 21 件であった。次期入所候補者の選出を事前協議等することで空床期間を抑え速やかに入所させることが出来、平年並みの稼働率を維持することができた。入院件数は 22 件と例年よりもやや少なかったが、入所者の重度化や長期入院の傾向があった。

- (1) 年間平均稼働率 95.4%（前年度 96.8%）
- (2) 平均介護度 3.90（前年度 3.93）
- (3) 平均年齢 86.9 歳（前年度 87.4 歳）

【看護室】 正職：2 名（1 名デイ兼務） パート：3 名（3 名デイ兼務）

感染症対策として看護室がイニシアチブを取り、防止対策に強い意識を持ち業務にあたった。園内での看取りの実践については、入所者 6 名の希望があり、嘱託医をはじめ多職種協働により入所者や家族の意向に寄り沿って実施できた。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 555 名（前年度年間延べ 466 名）
- (2) 入院状況 年間 22 名（前年度年間 25 名）
- (3) 死亡者数 年間 14 名（前年度 17 名）

【栄養室】 正職 1 名（ショート・デイ兼務）

食事形態の面では、昨年と比較し、刻み・ミキサー食、水分とろみ付きの割合が増加した。感染対策の一環として、食事場所、時間の変更に伴い、厨房の作業工程の見直しを実施した。流しそうめん会を中止し竹皿対応するなど、工夫を凝らし、季節感を感じていただけるような食事の提供をした。

【介護部】正職 13名（ショート担当2名） 嘱託・パート 10名

感染防止対策を講じながら行事等を実施し、季節を感じる企画や外出などを楽しむことができた。また、カリキュラムの見直しを適宜行ない、感染症発生時における業務継続に向けての準備を進めることができた。

- (1) 年間行事参加人数（ショート含） 446名（前年度393名）
- (2) 年間誕生会参加人数 46名（前年度488名）
- (3) 年間クラブ・レク実施状況 27回（前年度36回）
- (4) 精神スケール調査

令和4年2月1日～2月28日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和2年度	令和3年度
非認知症	21点以上	0	1
認知症	20点以下	32	36
調査不可能	—	17	10
未調査	—	1	3
合計	—	50	50

[2] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

1 指定居宅サービスの内容 定員 10名

2 会議等 ショートステイ会議 全12回

3 各部門

【生活相談室】 正職1名（介護支援専門員兼務）

コロナを理由にサービス利用を控える方はいなかったが、定期利用者の特養入所等が多く、稼働率の変動がある年となった。医療ニーズの高い利用者を受け入れることによって、年間稼働率の低下防止につながった。

年間平均稼働率 82.6% 平均利用 8.2名
(前年度 87.1% 8.7名)

【看護室】

感染症対策に留意しつつも、積極的に医療ニーズの高い利用者（経管栄養、バルーン留置）を受け入れ、定期的な利用に繋がった。

(1) 年間医療行為実人数 6名 延べ 288回（前年度202回）

【栄養室】 正職1名（特養・デイ兼務）

コロナ禍で工夫した「Liveキッチン企画」を引き続き実施した。

【介護部】 従来型に準ずる

季節感を感じていただけるよう旬の食材を取り入れたLiveキッチンを実施した。

共有スペースや居室レイアウト等に力を入れ、利用者一人ひとりに合った生活環境に配慮した。

[3] デイサービスセンター（通所介護事業）

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護（定員） 月曜～土曜：25名

2 会議等 デイミーティング 全12回

3 ボランティア協力状況 年間延べ0名（前年度0名）

4 各部門

【生活相談室】 正職2名（1名兼務）

コロナ禍の影響により新規受け入れは大幅に減少したが、年度前半の稼働率は上昇傾向にあった。しかし、年度後半は町内におけるコロナ感染者増により、利用を控える方が増えた。短期集中リハビリ型デイサービスについては利用希望者が多く、微増だが年間稼働率は上昇した。

稼働率	通常・総合	年間平均稼働率	70.5%	平均利用	17名/日
		(前年度)	69.4%		17名/日)
(1)	平均年齢	86.7歳	(前年度89.2歳)		
(2)	新規利用者数	通常型	7名	(前年度26名)	
(3)	中止者数	通常型	16名	(前年度18名)	

【看護室】 正職1名（特養と兼務） パート：3名

感染防止対策に留意しつつも、医療的ニーズの高い利用者を積極的に受け入れた。

- (1) 医療行為実人数 4名 延べ 胃瘻 45回 バルーン留置 146回

【栄養室】 正職1名（特養・ショート兼務）

短期集中リハビリ型デイサービスの参加者が増加し、栄養指導等も工夫を凝らした。毎月実施する誕生会にて、手作りケーキを提供した。

【介護部】 正職1名（兼務） パート：8名

感染防止対策等を徹底しつつ、季節を感じられる企画やレクリエーションを行った。また、楽しみながら個別機能訓練や体操を実施し、体力向上に注力した。

[4] 在宅介護支援センター（委託事業）

相談件数は前年度と同様。相談内容は介護保険サービスの利用についてが大半を占めている。また介護保険や介護タクシー券などの申請代行が例年より多かった。

- 1 利用規模 栄町全域
- 2 職員数 居宅介護支援事業所と兼務
- 3 利用状況 対応件数 30件（前年度 30件）

[5] ケアサービスセンター

コロナ禍の影響で在宅療養を希望される方が増えた。特に看取りの方は、数日や1ヶ月程度でケースが終了することが多かった。前半は町内のコロナ感染者増に伴い、サービスの自粛傾向にあったが、後半から増え始めた。

- 1 利用規模 介護給付 68名 予防給付 22名
- 2 会議等 ケアサービスセンター会議 全 12回
- 3 職員数 正職兼務 3名（うち1名は短期入所生活介護事業相談員を兼務）
- 4 利用状況

新規プラン受付 年間 27件（うち予防給付 3件）（前年度 33件（うち予防給 6件））

年間利用件数 要支援 201件 平均 16.8件/月（前年度 203件）
要介護 722件 平均 60.2件/月（前年度 786件）

4

松ヶ丘白翠園

新型コロナウイルス感染症に向かい合いながら事業に取り組んだ1年だった。

サービス付き高齢者向け住宅入居稼働率は上昇したが、デイサービスは積極的な営業ができず、稼働率が低下した。また、新型コロナ感染に伴いデイサービス「スポーツ館」が休業する期間があったが、「カルチャー館」やサービス付き高齢者向け住宅への影響は最小限に抑えることができた。デイサービス及びサービス付き高齢者向け住宅で重度化が進んだ利用者について、法人内他事業所へのサービス移行や入所につなげられたケースがあった。

[1] サービス付き高齢者向け住宅 兼務正職1名 兼務嘱託1名 パート2名 業務委託2名
今年度は、昨年度よりも稼働率は上昇したが、入居者24名中13名が生活保護対象者となっている関係で、稼働額の上昇には繋がっていない。入居者中、松ヶ丘白翠園デイサービス利用者は18名（内、スポーツ館利用者10名／カルチャー館利用者11名）。

入居者処遇についてケアマネと連携して調整する一方で、移動スーパー等の社会資源も活用し、各入居者のニーズに対応するように努めている。

1. サービス内容 定員26名（26戸）

2. 会議等

職員全体会議 全2回 処遇会議 全4回

3. 稼働率87.3%（前年度79.8%）

4. 平均年齢 80.6歳（前年度85.4歳） 平均介護度 1.1（前年度1.1）

[2] デイサービスセンター

1 指定居宅サービス内容 大規模型通所介護Ⅱ（令和3年4月1日～令和3年6月30日）
大規模型通所介護Ⅰ（令和3年7月1日～令和4年3月31日）
（定員）月曜～土曜：50名
（内、スポーツ館（本体事業所）25名／カルチャー館（サテライト事業所）25名）

2 会議等

経営会議 全11回

スポーツ館介護会議 全12回 カルチャー館介護会議 全12回

衛生委員会 全8回 感染症対策委員会 全8回

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全11回

4 ボランティア協力状況 年間延べ25名（前年度78名）

5 介護予防拠点事業 ※新型コロナウイルスの関係で未実施。

6 各部門

【生活相談室】 正職1名 兼務正職2名

前年度の延利用者数減少に伴い、事業所規模区分の変更（大規模型ⅡからⅠ）を行ったが、利用者数の回復には至らなかった。科学的介護情報システム（LIFE）の活用について理解を深め、効率的な運用を進めた。また、施設間往来を制限している中で、職員の連携を工夫し、情報共有や利用者の状態把握及びADL維持等に努めた。

稼働率	通常・総合	年間平均稼働率	62.4%	平均利用	31名/日
		（前年度	70.4%		35名/日）

- (1) 平均年齢 84.8 歳（前年度 83.6 歳）
- (2) 新規利用者数 通常・総合 9 名（前年度 14 名）
- (3) 中止者数 通常・総合 24 名（前年度 29 名）

【看護室】 パート 3 名

サテライト型の利点を活かしてスポーツ館・カルチャー館を総合的に対応し、サ高住入居者への健康相談、ワクチン接種等も実施した。利用者のご家族及び職員のコロナ禍における不安等に向き合い、情報提供や分かりやすい説明に留意した。職員で PCR 陽性者が出たが、感染拡大を防ぐことができた。

- (1) 年間運動器機能 年間延 263 名（前年度 338 名）

【栄養室】 正職 2 名 パート 7 名

カルチャー館の調理クラブでは、個人ごとに調理が完結する仕組みを考案し、感染対策を講じながら、季節の食材を使用したおやつ作りを実施した。敬老週間には、新たな試みとしてお祝いの料理を重箱に詰めて提供した。

- (1) 季節に合わせた行事食を年間 19 回実施。
- (2) カルチャー館の調理クラブを年間 10 回実施。

【介護部】 正職 2 名 兼務正職 1 名 兼務嘱託 1 名 パート 8 名 派遣 1 名

感染防止対策を徹底し、濃厚接触を防ぐ介護環境作りに留意した。各館の特徴を活かしながら、季節を感じられる行事企画やレクリエーションを実施し、コロナ禍での新しい楽しみ方を提供することができた。

- 園内外活動状況 (園外) パン移動販売車による屋外リハビリ実施
- (園内) 季節行事及びクラブ活動並びに誕生会毎月実施

5 佐倉地域包括支援センター

地域包括ケアシステム構築に向け、地域ケア会議（在宅医療介護連携推進会議・予防のための地域ケア会議・個別地域ケア会議・圏域推進会議等）を通じ、地域課題の把握、自助互助の関係づくり、医療・介護連携の推進、生活支援体制整備・認知症総合支援事業を推進している。

新規総合相談件数は 1 割程度増加し、継続支援はほぼ前年程度。指定介護予防支援新規利用者数は前年に比べ 1 割程度増加、新規利用者数はほぼ変わらない。

- 1 利用規模 佐倉市佐倉圏域（高齢化率 36.9% 高齢者数 10,296 人）
- 2 職員数 正職 7 名 パート 2 名

3 利用状況

- 指定介護予防支援月別利用者数 年間延べ 3,843 名（前年度 3,963 名）
- 新規利用者数 年間延べ 97 名（前年度 113 名）
- 総合相談件数 年間延べ 825 件（前年度 748 名）
- 継続支援件数 年間延べ 3,263 件（前年度 3,249 件）

6 佐倉はくすい保育園

コロナ禍の影響等もあり、登録児童数54名となったが、3月には卒園生11名を小学校へ送り出すことができた。事業所内保育は高齢者施設、保育園の職員不足解消に寄与し、延1084名が利用した。病後児保育においても、コロナ禍の影響があり利用人数は少ないが常に受け入れできる体制を取っている。平成27年度7月より実施した一時預かり保育事業のニーズは0、1、2歳に多いが、定員枠内の利用に限られるため、利用者数は少ないが、年間延べ54名が利用。

令和3年度は、当園の特徴である高齢者施設との共生事業として、窓越し交流や距離を取りながら戸外活動交流に取り組んだ。はくすい農園での苺狩り体験では沢山の笑顔が見られ、畑の野菜の収穫や調理する体験により、食への意欲と関心に繋ぐことができた。

1 認可保育所

(1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 60名 病後児保育事業 (定員) 3名

(2) 保育職員会議 全12回

(3) 利用状況

認可保育事業 登録児童54名 年間利用延利用人数10,598名
(9/15~18、2/26~28、3/24~26 コロナ休園)

一時預かり保育事業 登録児童5名 年間延べ利用者人数54名

病後児保育 事前面接件数30件(昨年12件)

年間利用人数11名(昨年1名) 延利用日数11日(1日)

2 地域子育て支援センター

(1) 実施内容 ミニ講座、身体測定、誕生会 1回/月
園庭開放、育児相談

(2) 利用状況 延べ利用人数34名(467名)
相談件数10件(46件)

3 事業所内保育

(1) 利用規模 定員9名

(2) 利用状況 月極め利用1名 一時利用20名
年間延利用人数1084名(昨年1017名)
平均3.5名/日(昨年3.3名/日)

7 臼井はくすい保育園

開園から4年を経過し登録児童数は52名となり、10名の卒園児を送り出した。

新型コロナ感染予防のため行事を縮小開催する中で、8月に保育園用のバスをリース購入して、園児の行動範囲を広げた。総合公園や、はくすい農園など土に触れる機会が増えて、人間形成の基礎になる活動も増えた。現在地域交流活動が難しい中、新たな交流の道も開けた。一時預かり保育事業では、2歳児に空きがあったため利用につながった。

1 認可保育所

(1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 50名

(2) 保育職員会議 全12回

(3) 利用状況

認可保育事業 登録児童52名 年間利用延利用人数10,345名

一時預かり事業 登録児童3名 年間延べ利用者人数30名